

白田浄水場の修理や改修計画は

答 平成29・30年度に「施設整備計画」策定の中で



内山 慎一 議員

水道事業について

問 水源の確保と地区別の給水計画は。
町長 平成27・28年度に稲取地区2箇所の水源地調査で水源が見えられた。稲取地区の熊口水源と併せ活用するため、厚生労働大臣の許可手続きを進める予定。
問 災害時の給水協定を結んでいる河津町との連携や広域の水道行政を進

める考えは。

町長 給水人口減や観光業の低迷で、水道収入が著しく減少している。先行している自治体を参考に考えてみたい。
問 白田浄水場の修理や改修は。

町長 白田浄水場は耐用年数50年で建設から49年目を迎えている。大規模修理や新設は、平成29・30年度に「アセットマネジメント」「水道ビジョン」及び施設整備基本計画を策定する予定でその中で考える。建設に係る国の補助金はない。

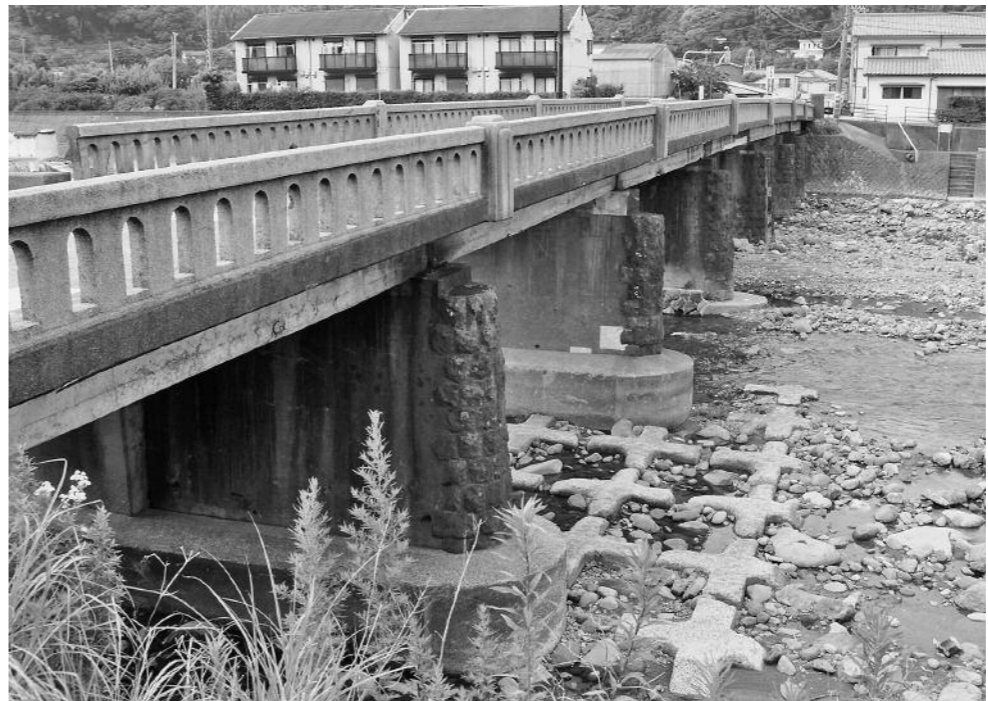


道路・橋りよりの改修

問 道路・橋りよりの改修計画は。

町長 道路は322路線・185km。橋りよりは95橋を管理している。財政面から、主要な路線や緊急輸送路、公共交通の安全確保に必要な橋りよなどから優先的に進めている。

問 白田川橋の改修工事について、町長は「通学路であり、交通の要路であるので最優先で改修工事を行う」と答弁していたが、いつになるのか。また国、県への働きかけはどうなっているのか。
町長 国、県への働きかけはしているが、町の財政事情や国、県の応分の補助が無ければできない。災害時のことも考え継続して取り組む。



改修が望まれる白田川橋

問 舗装されていない道路への生コン支給を考えるとできないか。

町長 農地が隣接する町道には生コン支給をして

いたが、現在は行われていない。町道ではない道路への生コン支給については区の要望があれば考える。

公共施設の維持管理をどう考えるか

答 維持管理費の増加に苦慮



村木 脩 議員

公共施設の維持管理

問 人口減少化のなかで公共施設をいかに維持管理するか、財政規模も縮小していく中でどのように考えるか。

町長 将来人口推計は2040年には7830人と予想され町の最重要課題と考える。

人口減少・少子高齢化により学校教育施設など余剰が発生し高齢者対

象とした福祉施設の需要が高まるなど施設へのニーズが変化することなどが予想される。

問 財政的にはどのようにするのか。

町長 今後40年間で230億円の維持管理費が推計される。補てんできる財源が約130億7000万円と約100億円の財源不足が見込まれる。

また、人口減少による町税収入の伸びは期待できない。将来的に公共施設のあり方を検討していく。

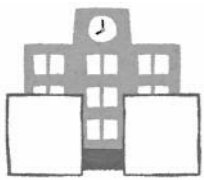
問 管理システムは。

町長 現状の担当課ごとの維持管理を全庁的な組織体制を確立し長期的視点で集約化・複合化し財



利用の少ない施設は見直しを

政負担の軽減・平準化、施設の最適配置に取り組んで行く。



買い物難民の対策は

問 高齢者が買い物に不便を感じているが。

町長 平成23年度に商工会で買い物代行サービス

を実施したが、利用者が少なく事業の継続には至らなかった。今後さらに高齢化が進むと何らかの対策を打っていかねばならないと考えている。

本年度、東伊豆・中伊豆の広域で地域公共交通網形成計画の策定過程で現場の問題点を洗い出すため、アンケートによる実態調査を行い課題解決のための計画を策定し、それに沿って対策を講じる。

問 高齢者の運転免許証返還率は。

町長 平成28年度末現在で当町の免許証所有者数8011人に対し65歳以上は2780人で34.7%となっており返還率は年々増加し27年で42人、1・56%、28年が56人、2・01%となっている。